

## 2026 年度入試 地理（2 月 8 日実施） 解答

一義的な解答が示せない問題については、解答例または出題の意図を掲載しました。

	問 1	A	洪水	B	土石	C	液状
	問 2	活断層					
	問 3	2					
	問 4	生活圏	エクメーネ		非生活圏	アネクメーネ	
(I)	問 5						
	問 6	<p>干拓地とは、水面や干潟を堤防などで仕切り、内側の水を抜いてつくられた土地であり、標高が低く浸水しやすい。埋立地とは、大量の土砂などを積み上げてつくられた土地で、標高が比較的高いため、防潮堤としても利用されることがある。</p>					
	問 7	<p>外水氾濫とは、大雨によって川があふれて、市街地側に流れ込み、浸水してしまう現象。内水氾濫とは、市街地に降った雨が通常なら下水道などから排水されるものが、下水道の排水能力を超えてしまったり、あるいは排水先の河川の水位が上がって、排水できずに浸水してしまう現象。</p>					

2026 年度入試 地理（2 月 8 日実施）解答

〔Ⅱ〕	問 1	①	中国	②	アメリカ合衆国						
		③	インド	④	ロシア						
		⑤	日本								
	問 2	1	2	問 3	2	5	7	問 4	2	6	
	問 5	①	インド		②	日本					
③		韓国		④	ロシア						
⑤		ブラジル		⑥	カナダ						
理由		<p>まず、石炭比率が圧倒的に高い①がインド、天然ガス比率が著しく高い④はロシアである。次に水力発電の比率が高い⑤、⑥のうち、天然ガス比率も同時に高い⑥はカナダ、再生可能エネルギー比率の高い⑤がブラジルとなる。残った②、③で、原子力比率の高い③が韓国、残った②が日本となる。</p>									
問 6	4										
〔Ⅲ〕	問 1	ア	遼減	イ	アルパカ						
		ウ	リヤマ	エ	日較差						
		オ	海岸		カ	パンパ					
	問 2	550									
	問 3	a	5	b	1	c	2	d	4	e	3
	問 4	1									
	問 5	<p>亜熱帯高圧帯であり下降気流が発達することに加え、沿岸を寒流のペルー海流が流れており、下層の大気が冷やされ、上昇気流が発生しにくい状態となっているため。</p>									
問 6	A	ラパス		B	イキトス						
	C	ブエノスアイレス									